

単元名 6 いにしへの心を訪ねる ー漢詩の風景

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読することができる。
 (2) 好きな漢詩を選び、自分の知識や経験と結び付けて、その理由を伝え合うことができる。
 (3) 進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとする。

標準的な展開例

11210218_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 漢詩を学習するにあたって、訓読の仕方を知り、漢詩特有の言葉遣いや調子に気をつけて読む。 ○「目標」(p.162)を読み、本時の学習課題をつかむ。 ★漢詩についての基礎知識を学び、漢詩を読もう。</p> <p>○教材にある3編の詩の中国語読みを聞き、中国文学としての意識をもつ。 ○「春暁」の書き下し文、訓読文、訓点のある文を読む練習をする。</p> <p>○「春暁」に描かれている情景や作者の心情を話し合う。</p> <p>○読み取った情景や心情を踏まえて、もう一度朗読する。</p> <p>2 漢詩に描かれている情景や作者の心情を捉える。 ○前時の復習をし、本時の学習課題をつかむ。 ★「絶句」「黄鶴楼にて……」を朗読し、情景や心情を読み取ろう。 ○「絶句」「黄鶴楼にて……」を朗読する。</p> <p>○「絶句」「黄鶴楼にて……」に描かれている情景や作者の心情について話し合う。</p> <p>○それぞれの詩に描かれているイメージを踏まえて朗読する。</p> <p>3 学習した3編の詩から、自分の好きな1編を選び、好きな表現や句を抜き出し、その理由を考えたり、作者の表現の意図を考えたりする。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★自分の好きな詩を選び、読み深めよう ○好きな詩を選び、好きな表現や句を理由とともに発表する。 ○3編の詩についてそれぞれの作者の意図を話し合う。</p> <p>○グループで意見交流を行う。</p> <p>○自分の選んだ詩を朗読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習の流れについて説明しておく。 ・漢詩の意味や鑑賞について述べている解説文と、漢詩3編から成り立っていることを確認する。 ・「春暁」「絶句」は五言絶句、「黄鶴楼にて……」は七言絶句であることを説明する。 ・「起承転結」の構成についても理解させ、現在も4コマ漫画をはじめ、様々な作品の構成法として用いられていることを紹介するとよい。 ・漢詩の形式の一つとして、「春望」(p.153)が五言律詩であることに触れておく。 ・白文→訓読文→書き下し文とする手順を確認する。 ・できれば、国語指導CDなどを使って中国語で聞かせる。 ・繰り返し声に出して読ませる際、読みに自信のない語句に印を付けさせたり、歴史的仮名遣いの箇所を示したりするとよい。 【評】訓読文を見て漢詩を読む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・教科書の解説文を手がかりに内容を読み取り春の明け方の心地よい眠りが、主題であることに気付かせる。 【評】「春暁」を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・漢詩の基礎知識について簡単に振り返る。 ・繰り返し声に出して読ませる際、読みに自信のない語句に印を付けさせたり、歴史的仮名遣いの箇所を示したりするとよい。 ・「絶句」については、前半の2句が対句になっていることに触れておく。 ・解説文を参考に、それぞれの詩の季節や描かれている情景、作者の心情についてまとめさせる。 【評】それぞれの詩に描かれている情景や作者の心情を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】情景や心情を考えながら朗読する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・それぞれの詩について、書き込みをするなどして、作者の表現の意図に迫らせる。 【評】作者の意図を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・4人程度のグループで、それぞれの意見を交流し合う。 ・代表者にグループで出た意見を理由とともに発表させる。また、他のグループからの質問があれば出させてもよい。 ・学級の実態に合わせて、個人またはグループ

○学習を振り返る。

で行う。
【評】詩のイメージを踏まえ、朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・学習を振り返る(p. 167)を読んで、自己評価させる。

【 備 考 】

古文や漢文には、それぞれ時代やジャンルなどによる特有の調子やリズムなどがあり、それが古典としての魅力を支える要因の一つにもなっている。また、古典には、現代に通じるものの見方や考え方のほかに、現代とは違った、あるいは現代人は忘れてしまったものの見方や考え方などが描かれている。現代語訳や関連する資料等も参考にしながら、昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しみながら、今を生きる自分たちを振り返るきっかけとしたい。

言語活動としては、その特徴をつかんだ朗読を通して古典に親しんだり、読み取った内容を伝え合わせたりして、より古典の世界を味わわせたい。